

JART・JIRA共同アンケート結果 速報

「モニタ品質管理に関する実態調査(2013年1月)」の結果

モニタ品質管理に関する実態調査を公益社団法人日本診療放射線技師会(以下JART)と一般社団法人日本画像医療システム工業会(以下JIRA)と共同でアンケートを実施しました。その結果の速報をお伝えします。

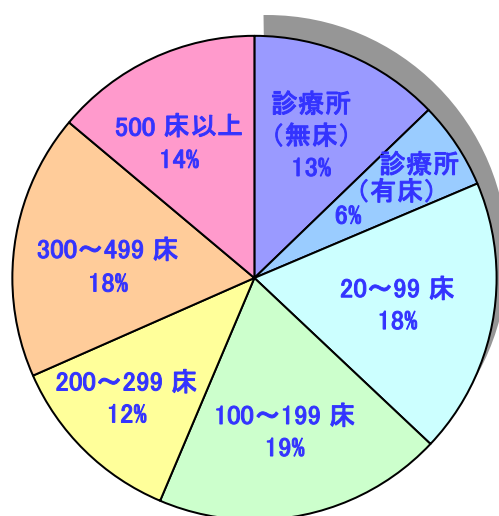
アンケートの概要

目的 : モニタ品質管理の実態や、JESRA X-0093 (QAガイドライン)の普及状況を把握し、今後のモニタ品質管理の普及活動(診療報酬への反映を含む)につなげることを目的とします。

対象 : JART会員
期間 : 2013年1月1日～1月25日
方法 : JART会誌1月号同封 FAX回答
回答者数 : 1163名

アンケート回答 病床数別分布

回答者数:1163名



JESRA X-0093 (モニタ QAガイドライン)とは?

JIRA がモニタの品質管理の重要性を認識し、日本医学放射線学会(以下JRS)、日本放射線技術学会(以下JSRT)の協力を得て、2005年に制定した「医用画像表示用モニタの品質管理に関するガイドライン」です。2010年に「JESRA X-0093*A²⁰¹⁰」と改定されました。

適用範囲: 下記を満たす医用画像表示用モニタ

- ・ 医療機関でモノクロ画像を表示するモノクロモニタ、カラーモニタ
- ・ 表示システムがDICOM PS3.14 で規定しているGSDF特性であること

URL <http://www.jart.jp/news/tclj8k0000000we0-att/JESRAX-0093-2010.pdf>

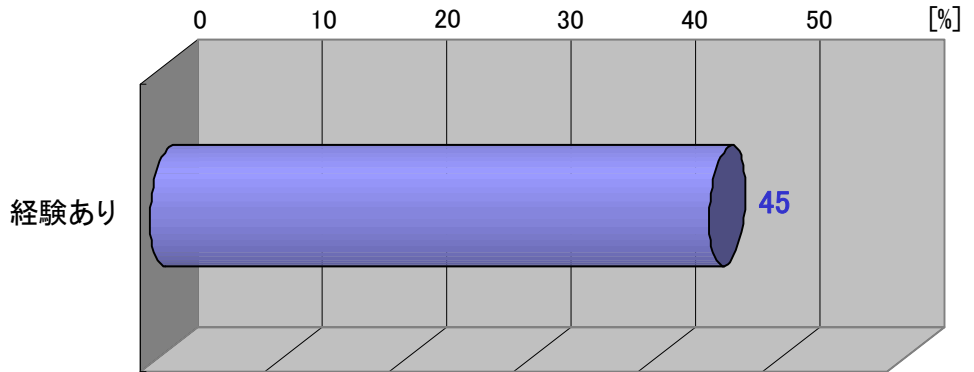


※ 画像診断行為を行うモニタはQAガイドラインで管理されていることが望ましい。臨床運用についてはJRSの「デジタル画像取り扱いに関するガイドライン」を参照してください。

※ 「放射線業務の安全の質管理 マニュアルVersion1」では医用画像表示装置の点検管理方法はJESRA X-0093による管理が必要であると記載があります。

モニタによって画像の印象が異なるという経験がありますか？

回答者数: 1163名

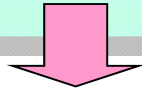


45%の診療放射線技師の方が、モニタによって画像の印象が異なる経験ありと回答しています。

コメント紹介 「大きく輝度が劣化したまま診察していた。」

「使用現場の状態(明るさ)により、見え方が変化する場合があった。」

「同一メーカー、同一機種であっても左右モニターが階調・輝度・コントラストが一致しないことがあった。」

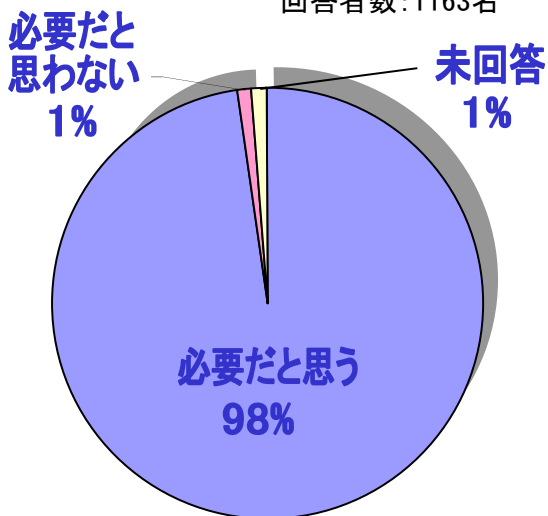


QAガイドラインで管理すると改善されます。

品質管理は必要？ QAガイドラインの普及率は？

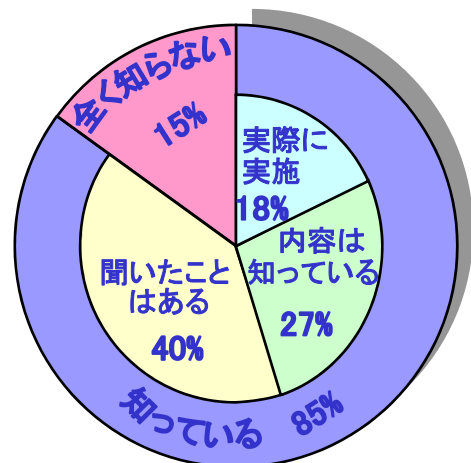
モニタの品質管理は必要だと思いますか？

回答者数: 1163名



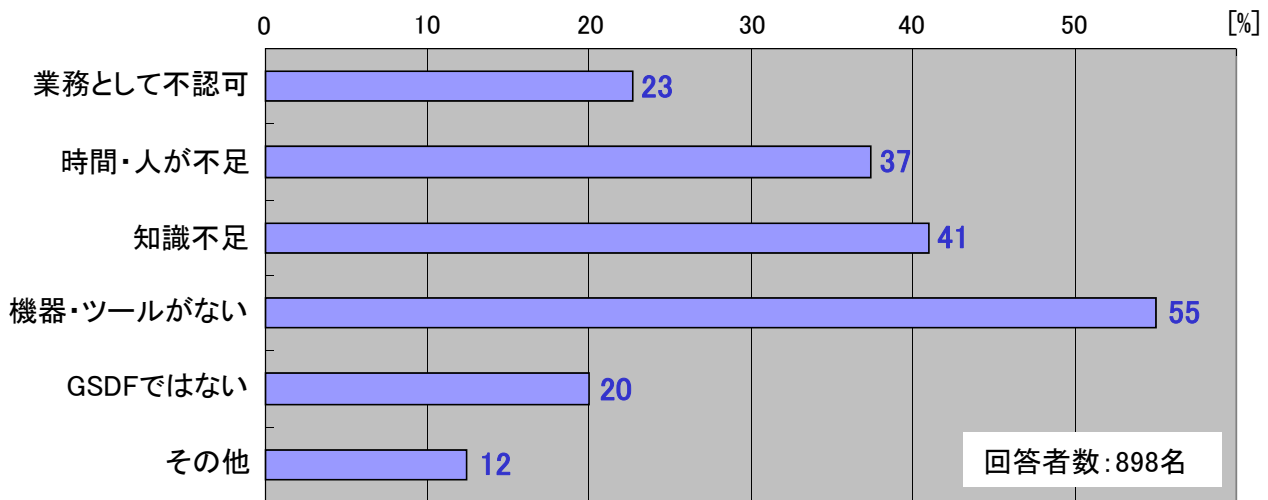
QAガイドラインを知っていますか？

回答者数: 1155名



診療放射線技師の方は98%がモニタ品質管理が必要と思っています。
QAガイドラインの知名度は85%と高いですが、実施率は18%と低くなっています。

医用画像表示モニタでも品質管理をしていない理由は？（複数選択）



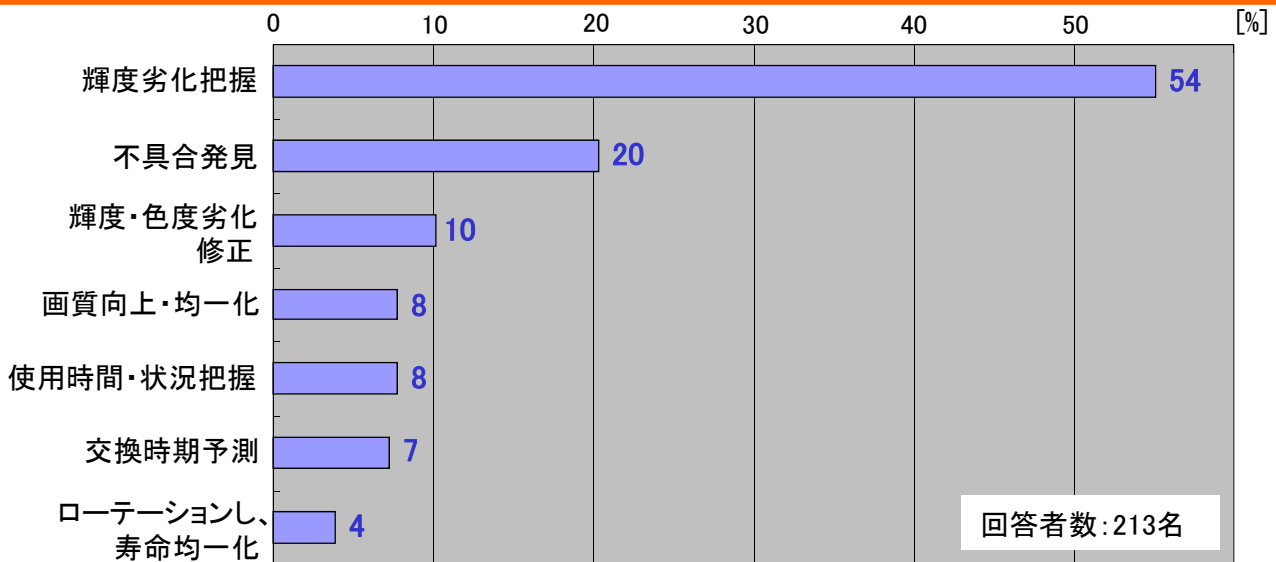
「機器・ツールがない」が55%と高くなっています。「知識不足」、「時間・人不足」が40%前後あり、「業務として認められていない」、「GSDFではない」という理由も20%以上あります。

コメント紹介 「院内での体制、運用が定まっていない。」

「薬事承認端末ということで、品質管理ツールのインストールが認められないため。」

「品質管理の必要性を感じない。」

品質管理を実施することによるメリットは？（自由記述・複数回答）



メリットを回答頂いた方の54%が輝度の劣化の把握ができたと回答し、さらに輝度・色度劣化修正（キャリブレーション）を行っている人もいます。20%の方が不具合（パネルのシミ、傷、ノイズ、補正できない輝度劣化など）を発見できたと回答しています。

コメント紹介 「輝度低下を確認し、補正を行うことが出来た。」

「使用時間を把握し、院内ローテーションを行うことが出来た。」

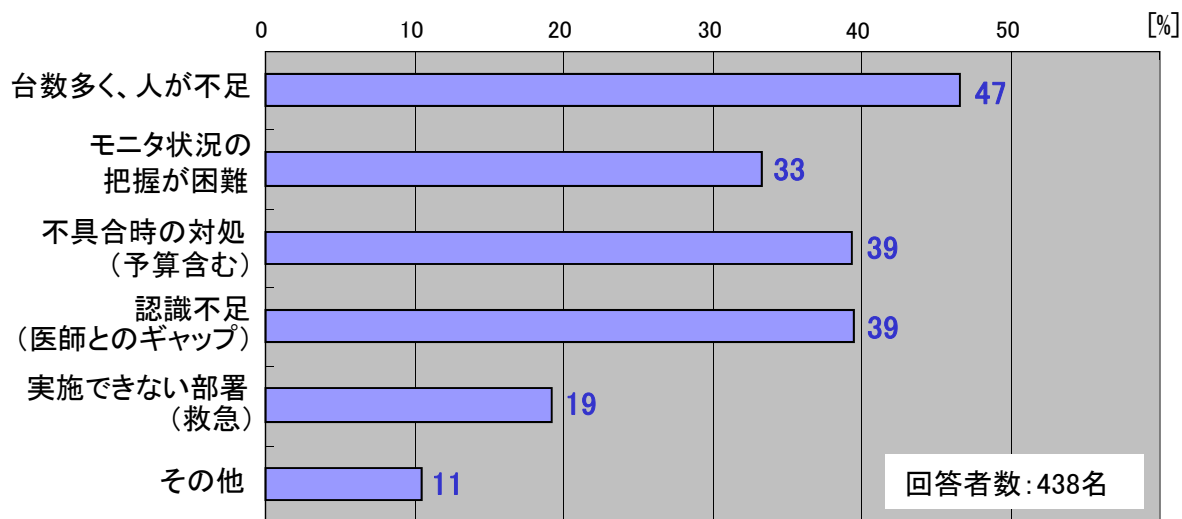
「劣化が把握できるためモニターの交換時期が事前に予測出来る。」

「医療診断モニターでは見やすくなっているところがあり再撮影を回避できた。」

「モニターごとのばらつきをなくし、表示品質を統一することが出来た。」

「劣化を事前に把握したため、ダウンタイムを短く出来た。」

品質管理の実行で困っていることは？（複数選択）



品質管理をしていない理由に業務として認可されていないことが挙げられているように管理する人の不足が理由として最も多くなっています。また、制度面に課題があるのではないかと考えられます。

QAガイドライン（JART/JIRA）への要望は？（自由記述）

コメント紹介 「診断用モニタの輝度等をもう少し明確に示してほしい。」
「分かりやすい初心者向けマニュアルを作成していただきたい。」
「学会等でモニター品質管理の必要性をアピールして欲しい。」
「ヒヤリハットの具体例を公表し、品質管理の必要性を説いてほしい。」
「モニターの品質管理の重要性から、診療報酬に反映させて欲しい。」
「業務として確立するために義務化して欲しい。」
「実務講習会を行って欲しい。」

今後の活動

JIRA 医用画像システム部会 モニタ診断システム委員会では、実施したアンケート結果をさらに分析し、QAガイドラインの改善や普及活動はもちろん、より適正なモニタ診断が行われるよう、各学会へのアプローチや診療報酬への反映などの制度面の改善にも力をいれていく所存です。詳細分析結果は別途報告します。

謝辞

今回のモニタ品質管理に関する実態調査（2013年1月）に協力頂いたJART中澤靖夫会長、会員の皆様、アンケート実施にご尽力頂いた北村善明理事、児玉直樹理事、関係者の方々に心から感謝の気持ちとお礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。



一般社団法人 日本画像医療システム工業会 <http://www.jira-net.or.jp/index.htm>
Japan Medical Imaging and Radiological Systems Industries Association